負うた子に教えられ

先日、小学校で一年生の授業を参観しました。それは、算数の時間でした。

「ここに十人の子供がいます。テーブルの上には、おが九つしかありません。お饅頭を食べられないのは何人ですか」と、先生が問いかけました。子供たちは口々に「一人で～す」と、元気よく答えました。ところが、一人の女の子がそっと立っていいました。

「誰かが半分わけてあげると、みんな食べることができます」

　先生も参観している親も、そして子供たちも、一瞬けげんな顔をしたものです。そして、誰からともなく起こった拍手が、やがて教室いっぱいに広がっていきました。

　人を思う心、共に生きる心は、数では表せない奥深い『愛』の発露と申せましょう。

　負うた子に教えられ|あなたは、いかがお思いでしょうか。

応募時（兵庫県63歳）西澤克巳